

【授業科目】血液検査学実習Ⅰ Practice of Clinical hematologyⅠ

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|-----------------------------------|---|------|-----|-----|-------------|------|---|-----------|
| 鈴木 真紀子 | 2年次後期 | 必修 | 1 | 30 | 実習 | あり | 巻末掲載 | 可 |
| 授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法 | <p>授業概要／本実習では、各検査項目の測定原理、検査方法、臨床的意義について具体的に教授する。正確なデータを提供するために、検体採取が正しく行われているかが重要となる。血液の検体採取(採血)の基本的な手技と併せて、安全確保について理解し実践できるように進める。採血には接遇と併せて、感染対策なども含めた安全管理も重要となるため実践的に教授していく。基本的な手技は勿論、検査結果を解釈する力をつける。結果から考えられることをグループで話し、疾患との関連性も考えられる力を養う。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。定期試験について、時間を設けフィードバックを実施する。口頭試問及び、実技試験に関しては、主に口頭でコメントをする。</p> | | | | | | | |
| 授業の位置づけ | <p>大学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | <ol style="list-style-type: none"> ① 採血の手順が説明できる。採血時の接遇が出来る。採血合併症を説明できる。 ② 測定法と基準範囲を説明できる。 ③ 検査から導きだされたデータの評価ができる。 ④ 検査の原理及び、方法を説明できる。 ⑤ 様々な検査法がどのような疾患時で実施されているのかを説明できる。 | | | | | | | |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言 | <p>グループで実習を行うが、各自が積極的に実習に取り組むこと。 説明を集中して聞いて、1つ1つの操作を確実にやり、安全に実習を進める事。 第1～15 回事前学修：指定の教科書及び、血液学、血液検査学Ⅰ、血液検査学Ⅱの授業を復習する(30分)。 第1～15 回事後学修：実習内容のレポートを作製する(30分)。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p> | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1・2回 実習ガイダンス 採血について(手技、接遇、合併症)</p> <p>第3・4回 採血シミュレーターを用いた採血の実技 血球算定(赤血球数、白血球、血小板)</p> <p>第5・6回 採血シミュレーターを用いた採血の実技 血球算定(赤血球数、白血球、血小板)</p> <p>第7・8回 採血シミュレーターを用いた採血の実技 血球算定(赤血球数、白血球、血小板)</p> <p>第9・10回 採血の実技試験(シミュレーター使用、接遇も含む) 血球算定(赤血球数、白血球、血小板)</p> <p>第11・12回 Ht測定、Hb測定、網赤血球数の測定、血沈の測定 血液塗抹標本作成</p> <p>第13・14回 Ht測定、Hb測定、網赤血球数の測定、血沈の測定 血液塗抹標本作成</p> <p>第15回 血液塗抹標本作成実技試験 普通染色</p> | | | | | | | 全て 鈴木 |
| 評価方法 評価基準 | <p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験20%、実習単元ごとのレポート50%、実技テスト 20%、実習態度 10%</p> | | | | | | | |
| 教科書 | <p>奈良信雄著『臨床検査学講座血液検査学』 医歯薬出版株式会社 (1年前期「血液学」で使用したものを使用)</p> | | | | <p>参考書等</p> | | <p>『病気がみえる vol.5血液、 vol.6 免疫・膠原病・感染症』 メディックメディア</p> | |
| 学生へのメッセージ | <p>実習は各自積極的に取り組む。レポートの作成は自身のレポートを見て、次に同じ手技が出来るように方法、注意点を記載すること。考察は結果から考えられることを記載すること。</p> | | | | | | | |